



地域子育てネットワークだより

令和2年4月号

発行／兵庫県子育て応援ネット推進協議会事務局

〒650-8567 神戸市中央区下山手通 5-10-1 兵庫県企画県民部女性青少年局男女家庭課 電話:(078)341-7711 内線 2798

E-MAIL: danjokatei@pref.hyogo.lg.jp

http://web.pref.hyogo.lg.jp/kk17/network-dayori.html

子育て応援ネット全県大会を開催



地域ぐるみで子育て家庭への支援を推進する「子育て応援ネット」の全県大会が2月10日、約380名が参加し、兵庫県公館で開催されました。みすまる保育園の園児によるすばらしい斉唱で開幕し、子育て応援ネット推進母体による活動事例発表と「増加する児童虐待の背景と地域で子どもを守るために」をテーマに認定 NPO 法人児童虐待防止協会理事長・津崎哲郎氏による講演が行われました。

子育て応援ネットは、今後も地域住民による子育て家庭の見守り活動等の展開を支援していきます。



挨拶

兵庫県連合婦人会 副会長 友藤 富士子



「地域の子どもは地域で守る」という言葉のとおり、子どもの見守り活動をはじめ、多くの子育て支援事業に取り組んでいただいていますこと、心からお礼と感謝を申し上げます。

平成9年に起きたじゅんちゃん事件を契機に、「子育て応援ネット」として、子どもの安全・安心を守り、子育て家庭を応援する活動を全県で取り組んで来ました。しかし、連日のように悲しい事件が兵庫県だけでなく、全国で報道されています。地域で活動する私たちが今一度地域で頑張り、子どもを、そして子育て家庭の応援をしていただきたいと思います。

講演

「増加する児童虐待の背景と地域で子どもを守るために」

認定 NPO 法人児童虐待防止協会理事長 津崎哲郎

今、児童虐待は全国で、行政が把握しているだけで、年間30万件ある。ここ20年くらいで、子どもの数は3割程度減少しているが、何らかの理由で子どもを預かって欲しいという件数は5、6倍に増えている。これは、子どもを家庭で養育することが難しくなってきたということ。

虐待が起こる原因、背景は「経済的に苦しい家庭」「社会的に孤立している家庭」「未熟な親の人格」の3つが中心的要素であり、プラスαで、「夫婦間の協力関係」「ひとり親家庭」「育てにくい子」であると虐待になりやすい。更に、「複雑な家庭(連れ子再婚等)」で酷い虐待が起こっている。

虐待を発見するポイントは、子どもの「身体的特徴」や「無意味な徘徊」「虐待の再現(自分より弱い相手に対して、役割を変えて再現する)」、虚言や万引きも愛情が与えられていないという反作用的な現れだとみていただきたい。また、親の行動では、周囲が関わろうとしても難しい、子どもに合わせようとしめない等は非常に危ない。

虐待が子どもに与える影響として、免疫機能を活性化させる胸腺が萎縮し、免疫機能の低下、衰

弱、病気になりやすい、なっても回復しないなどの影響がある。さらに、脳への影響があり機能障害が起こると言われており、なかなか回復しないため、まずい行動となって出てくることで、周囲から阻害、叱責されることで「二次的虐待」が起き、子どもは「世界全体が自分を非難、攻撃する」といった世界観をつくってしまう。

虐待は周りからの発見で関与する。全国共通ホットライン「189」に疑いで通報して欲しい。

最後に覚えていただきたいことは「10秒子育て」。バスや電車で子どもを連れただお母さんは気兼ねしながら乗っている。冷たい目で見るとはではなく「温かい言葉」を掛けて欲しい。それだけで、お母さんの育児負担が軽減され、虐待防止に繋がる。もう一つは、「二次的虐待を防ぎ心に残る存在」。子どもにとって、思いやりを掛けてくれ、理解してくれる人が1人でも居ることが人間性を形成するうえで大きな影響があり、生きていく上での支えになることを知っていただきたい。



子育て応援ネット活動事例発表

【多可町青少年問題協議会 岡本 美紀】 「地域とつながる子育て支援をめざして」

多可町では年間の出生数が 80 人あまりと非常に少なく、子育て家庭が孤立しないよう、多可町子育てふれあいセンターでは、親同士や、地域の方と繋がる支援に努めています。

自然豊かな多可町の良さを生かし、心と身体を豊かに育てることに力を入れており、色々なところに出掛けて、多可町を知ると共に、たくさんの人と出会い、触れ合う機会を多く取り入れることで、地域の中で親子が育つ環境を整えたいと思いながら、様々な活動に取り組んでいます。

その 1 つの「赤ちゃん広場」では、身体測定、スキンシップ遊び、情報交換などを行い、お母さん同士の会話で安心したり、子育てなどのコツをつかむ機会となっています。また「体験あそび」では、町内の山や川へ出かけて行き、家ではできない様々な体験をするとともに、自分の町を知っていただく機会になればと思っています。さらに、「地域の方との交流」では、たくさんのボランティアの方に参加いただいている「たかっこフェスタ」や老人会の方等と交流する「地域交流」など笑顔あふれる交流を重ね、日常の中で声を掛け合えるような町になればと思っています。

子育てふれあいセンターが親子と地域としっかり繋がり、親子と地域が繋がる機会を提供し、子育ての輪を広げると共に、色々な世代の人と触れ合うことを通して、人の温かさをいっぱい感じながら、人と繋がることの大切さを伝えて行く事を大事にしていきたいと思っています。



【たつの市子育てネットワーク推進協議会 下房 仁美】 「家庭・地域・学校をつなぐパイプ役として」

たつの市連合婦人会は、6つの地区で構成されており、それぞれの活動について紹介します。
【揖保地区】学校行事に保護者が参加できるよう、図書室で子どもの預かりを実施したり、長い歴史の盆踊りでは、子ども達にポスターを募り、表彰するなど関心を高める工夫をしています。

【誉田地区】毎朝横断旗を持って子ども達の安全な登校を見守っています。他の所で出会っても、親子で挨拶をくれるので、地域力アップにも効果があると確信しています。

【龍野地区】婦人会が子どもや高齢者の支えとなって地域全体が家族のような町づくりを目指し、「子ども預かり事業」や「龍野3世代ふれあいの夕べ」などを実施しています。

【神岡地区】毎年「夏のふれあい祭り」を開催し、園児達の演技、小中学生の演奏、鮎のつかみ取り、婦人会の出し物など、お楽しみ満載の見応え、遊び応えの祭りです。

【小宅地区】「夏休み小学生の料理教室」や「親子料理教室」を開催し、子ども達に料理の楽しさ、食事への関心、喜んでもらえることが自分の喜びにもなること等を感じて貰えればと活動しています。

【揖西地区】「稲作体験学習」をとおり、小学生に伝統的なわら細工づくりを教え、収穫した餅米で一緒に餅つきをして食べたり、66年続く校区内をリレーする駅伝大会は、世代を越えた思い出と話題が共有できる行事となっており、婦人会も豚汁を作って激励しています。



自由な遊びが子どもの社会性を育む

県立こども病院名誉院長 中村 肇

連載第 145 回

新型コロナウイルス感染症の流行で休校、休園となり、子どもたちは自宅に閉じ込められています。幸い、屋外での遊びは、室内遊戯に比べて感染機会がはるかに減りますので、発熱や咳などの風邪症状がなければ、校庭や公園など、人ごみのない屋外で、遊ばすようにしたいものです。

遊びの中でも、ルールの確立しているゲームをスクールやクラブでコーチから系統だった指導を受けていると、上達は早く、自らの上達の度合いもわかりやすいのですが、子どもたちが自発的に始めた、ごっこ遊びのようなルールのない空想力にまかせた遊び（自由遊び）、創造的な遊びの方が、発達中の脳にとってはずっとよい刺激になります。

塾や習い事、スポーツクラブもお休みの今こそ、子ども自身で学び、遊びを考え、親と子の絆を強めるいい機会です。この体験が、大人になった時に、ストレスに対処し、問題解決に役立つことでしょう。